令和６年１２月２５日受付 肝付町議会事務局　第474号	議長	局長	次長	係
	電子	電子	電子	電子

委　員　会　会　議　録

〔　産業・福祉　委員会　〕

１．日　　時　　令和６年１２月１６日（月）
　　午前・午後９時５５分開議　～　午前・午後１０時５８分散会
２．場　　所　　第２委員室
３．出席委員　　吉原・田中・前田・木村・田布尾・中原　計６名　　欠席：益山
４．事務局職員　　西森
５．説明員　　なし
６．参考人　　なし
７．会議に付した事件
　(1) 閉会中の継続調査について
　　「本町の稲作について」
　(2) 所管事務調査について
　(3) その他
　　① 調査研修について
　　② 肝付町自殺計画策定委員会委員の推薦について
　　③ 次回開催日
８．議事の経過概要

【委員長あいさつ】
皆さんお揃いですので、只今より産業・福祉委員会を始めます。
益山委員におかれましては、欠席届がでております。ご了承ください。
では早速事件に入りたいと思います。

(1) 閉会中の継続調査について
「本町の稲作について」
委員長　：皆さんに、お知らせというか、協議していただきたいことがございます。
報告書の作成については、私に一任されてまとめる予定でした。
食味値計の導入について、求めればよいという話でしたが、どのような感じなのか、使用状況など聞く必要がある思い、伊佐市に電話で確認をしました。
その内容ですが、毎年120件ぐらい利用されている。食味値の分析は１合ぐらい持って来てもらい、光を照らすような機械で、点数がでる。食味値計のランニングコストに関しては年に６万円ぐらいとのことでした。また、その機械は、担当の方は私が入る前からあり、調べないとわからないとのことでした。
次に、先程配布した資料で説明したいと思います。

【配布した資料：WCSや水稲の作付面積と出荷数量】

この資料を農業振興課よりいただき、数値を提供した農協に話を聞きに行きました。
話を聞いたところ、農家さんと相違点がかなりあって報告書はできておりません。
この資料をもらったときに農業振興課と話をしました。
まず、食味計は導入する考えがあるのか尋ねたところ、県に申請はしたが計画の不備を指摘され不採用となり、今年度の導入は無理となったという回答でした。
　その後、農協に行きまして、「なつほのか」を奨励米とする考えはどうかと尋ねました。
「イクヒカリ」を奨励米とし盛り上げた経緯がJAではあったが、回答としては難しいと

のことでした。理由として、JAや町はもちろん、生産者や国も関係すること、分析値をどのようにするのかとか、すぐにできるものではないとのことでした。
また、「なつほのか」に関しては、おいしい米づくり研究会の方々からも奨励米とすべきとの意見を聞いていると話すと、本町は湿田が多い。乾田の田んぼに向く品種であり、収穫もお盆にずれ込むから農家さんもなかなか取り組まないのではないかとのことでした。
また、水利の問題もあって難しいのでは、と尋ねたところ、もちろんそれもあるが、各農家さんは経営形態が違う、つまり年間で計画されているそのほかの仕事も全部ずらさないといけないということもあり、やはり難しいのではないかとの見解でした。
例として、昔アイガモ米も今はどのようになったかわからないといったように、奨励米というのはなかなか厳しいものがあるとのことでした。
農協も「なつほのか」の集荷をされているので、食味値計についても尋ねました。
農協では米は等級が重視されており、1等米から2等米、3等米、規格外である。本年は、値段に関しても200円ずつ下がることになっている。
農協は食味値計については重視されておらず、食味値にこだわればその分経費がかかるとのことでした。
また、現状として、食用米が7割～8割、加工用・飼料用米が2割～3割の状況である、その加工用米・飼料用米には補助金が出ており、等級は関係なく引き取ってくれることもあるので、現在高値で主食用米は推移しているが、転換は難しいとのことでした。

以上のことから、答えが出せない状況にある。よって、今後継続調査とするのか、審議未了にするか、皆さんのお考えを聞かせていただきと思います。

【委員からの意見】

木村委員：JAについては、食味分析機の投資はできないとのですが、今は経営型が違ってきている。昔は営農指導員を配置している状況もあったが、今はもうない。共済とか保険とかそっちの方に重点をおいている現状もある。経営的にも厳しい状況であることも理解できる。
JAは別として、米づくり研究会が望んでいることをどう対応するかだと思います。

委員長　：そうですね。米作りに力を入れている団体ではありますよね。

木村委員：肝付町の農業を引っ張っている人たちで、中心的な役割を担っている人たちであるので、町がどのように対応するかだと思います。

委員長　：JAに出荷しているのは一部の声でしかないと思う。

木村委員：町がどうやって対応するかだと思う。

委員長　：他の委員からご意見はありませんか。

前田委員：水稲部会が中心となってくると思います。JAだけの判断ではなく、農家さんの意向は強かった。JAとしては、委員長が言われたそういうことしか言えないと思います。
農業振興課の考えで進めていければどうかと思います。

委員長　：ちなみに、農業振興課に確認をしたところ、機械は400万円するとのことでした。
土壌分析は別となる。
県の補助金については、計画が不十分であることが理由であった。

木村委員：県でダメだった補助事業は、その後国の事業でなんとか努力はしてないの。

委員長　：計画が不十分であるということだったので…。おいしい米づくり研究会だけではダメなわけで、水稲部会など広げる必要があるのではないかと言いました。

みんなが望んで広げていくという意思がやっぱり必要だと思います。そこまで持って行けるかと言うと、不安があるとのことでした。

中原委員：トップダウンのやり方はいずれ消滅してしまうと思います。
下からの盛り上がりや意向がないと、このような機械を導入しても活用があまりないと思います。県の方からの計画不足というのは、そういう盛り上がりがあってこそ申請ができるものだと思います。行政の方で進めてやるやり方は、効果が無いような気がします。

木村委員：今回は研究会が要望したわけでしょ。

委員長　：この前のお話を聞いて、農業振興課が申請をしたところだと思います。この前から進めていたかという確認はとっていませんが…。

木村委員：要望があって、研究会の中で話しが出て、農業振興課は段取りをしたのだと思いますが…。

中原委員：研究会の人たちは、販売にも苦慮していない状況であるとの意見があったので、今の経営体を持続させるようなことでいいような気がしますが…。

委員長　：継続で調査をするのか、審議未了とするのか、次の調査に移るのか意見をいただきたい。

前田委員：20日（金）においしい米づくり研究会主催の米の試食会があるので、意見を聞いてみてはどうでしょうか。

中原委員：ちょっと余談ですが、テレビで外国産の米がちょっと名前を変えて、間違えるような名前にして安く売っている。見ても分からない。それで国は非常に危機感を感じているとありました。国は米の輸出に関して積極的にしていると思いますので、継続して調べたいところもある。そのような情勢も見て行く必要があると思う。

前田委員：いきなり、未了とするものいかがなものかと思いますので、中原委員が言われたことも総合的に考えた方が良い。

委員長　：米づくり研究会の方々の要望は農業振興課にも伝えている。

田中委員：WCSの作付けが多い。米の作付けが減ってきているように見える。さみしい感じがする。

委員長　：皆さんで結論を出したいと思います。

木村委員：私は継続で良いと思う。

中原委員：稲作についての調査は継続して、新しく所管事務調査を入れたほうが良いと思う。

前田委員：今年度の米の動向、来年度の作付け状況はどうなるのかというようなことから、継続で良いと思う。

委員長　：この件に関しては、他の委員も一致ということで、継続調査といたします。

(2) 所管事務調査について

委員長：先ほど中原委員からもありましたが、新しく調査をすればどうかとご提案だったかと思います。私の方もいろいろと考えまして、現在の調査と町立病院の調査はどうかと思っているところです。今回また病院の調査研修にも行きますので…。いかがでしょうか。

出席委員：その意見で良いと思います。

委員長　：「町立病院について」を議題とし、閉会中の継続調査とします。

(3) その他

① 調査研修について

日　　程　　令和7年2月17日（月）～19日（水）

研修先及び目的

【研修先】　2/18（火）午前10時～　佐賀県太良町「町立太良（たら）病院」
【目　的】　病院改革における取り組みと現状について

事務局　：佐賀県太良町議会事務局へ研修の依頼をしたところであります。
病院の事務局からは、病院改革を行ったのは 10 年ほど前の話であり、現在は医師の確保に苦慮しており、経営的に厳しい状況である。
また、改革は進んでおらず、お話しできる内容が期待に添えない可能性があることなどを理解したうえで、研修を受け入れるとの回答でありました。
当時の改革については、事前に質問があれば対応していただけるとのことでありました。
当時の病院改革の取り組みや現状をお聞かせいただき、今後の参考にしたいとお話をして、研修を受け入れてくださったことを理解していだければと思います。

中原委員：その太良町の病院の改革の内容がわかる資料を提供して頂けないだろうか。

事務局　：後ほど資料を提供したいと思います。

【研修先】　2/19（水）午前10時～　熊本県八代市「有限会社　ひらやま」
【目　的】　陸上養殖事業の取り組みと地域活性化へ向けた可能性について

木村委員：何を養殖しているのか。

委員長　：サーモンですね。食糧危機が迫る中で、どのように食料を確保するかという取組みで、サーモンは、ノルウェーやチリからほぼ輸入であることから、先々このようことが伸びてくる。
ここは自分たちで技術を開発して、取り組みを進めている。

行程（案）　町総務課バスを利用
2/17（月）：肝付町出発 ⇒ 佐賀県へ異動
2/18（火）：調査研修【町立太良病院】⇒ 熊本県へ異動
2/19（水）：調査研修【有限会社　ひらやま】⇒ 肝付町到着

事前質問　　提出期限：令和7年1月15日（水）まで

中原委員：委員全員が参加することが必要だと思います。田布尾委員は畜産をされているので、ヘルパーなどの制度があったかと思いますが…。そのことについて、畜産課に確認をしてみてください。

委員長　：リモートという形もとれるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

中原委員：宿泊関係の段取りもあるかと思いますが、いつまでに伝えればいいでしょうか。

委員長　：宿泊関係の予約は私の方でしたいと思います。

事務局　：先ほど中原委員から質問のあった太良町の町立病院の資料関係は、会次第の方に添付しましたのでご確認をお願いします。

② 肝付町自殺計画策定委員会委員の推薦について

委員長　：現在は前田委員がされております。

木村委員：田布尾委員、経験豊富なのでいかがですか。

委員長　：前田委員、年に1回ぐらい会議が開かれるのですか。

前田委員：そうですね。

中原委員：引き続き、前田委員お願いできないですか。

前田委員：わかりました。

委員長　：それでは継続して前田議員を推薦したいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員　　：はい、よろしくお願いします。

③ 次回開催日

委員長　：町立病院事務局と後日日程を調整して、改めて連絡する。

委員　　：委員長へ一任することで了承。

産業・福祉委員長　　吉原　光

令和６年１１月１９受付 肝付町議会事務局　第４３１号	議長	局長	次長	係
	電子	電子	電子	電子

委　員　会　会　議　録

〔　産業・福祉　委員会　〕

１．日　　時　　令和６年１１月８日（金）
　　午前・午後９時５５分開議　～　午前・午後１０時５５分散会
２．場　　所　　第２委員室
３．出席委員　　吉原・田中・益山・木村・田布尾・中原　計６名　　欠席：前田
４．事務局職員　　西森
５．説　明　員　　なし
６．参　考　人　　なし
７．会議に付した事件
　(1) 閉会中の継続調査について
　　「本町の稲作について」
　(2) その他
　　調査研修について
８．議事の経過概要

【委員長あいさつ】
皆さんお揃いですので、只今から産業福祉委員会を開催します。
前田議員は、本日は欠席であります。
それでは早速ですが、協議に入りたいと思います。

(1) 閉会中の継続調査について
「本町の稲作について」
【委員長】
前回、おいしい米づくり研究会の方々に参考人として出席してもらった。
いろんな意見があり、現状など把握することができた。
質問や意見など、会議録を添付しているのでご確認いただきたい。
【委員からの意見】
○ この前の話でもあったとおり、肝付町のお米がブランド化の関係で表彰を受けたということもあり、食味値については依頼して分析をしているということである。
伊佐市は庁舎内に設置しており、農家が活用しているとのことであるが、そのことについて、執行部からその後考えなどについては確認したでしょうか。
○ その後執行部に確認はできていないが、おいしい米づくり研究会の方々の意見としては、この話がネックになっている感じであった。そのような食味値の話ができれば、強力に取引先と自信を持って販売ができるようになると思う。
○ 議員からも一般質問でブランド化ができないかという質問がありましたが、そういう機械があればブランド化も進むのではないかと答弁ではあった。それが無くても町が奨励米としてすれば、一歩前に進むとも言われた。
○ 「なつほのか」の奨励をすればどうかという意見があった。食味値が高く、伊佐米より高評価を受けたことがあるということであったが、栽培方法や水利の問題など課題があると言われていた。
その問題・課題をまずは解決する必要があり、解決できれば「なつほのか」を広めることができ、ブランド化ができると思う。この問題・課題をクリアできなければ、その機械があって

も、無駄になってしますのではないか。多くの米農家がブランド化を目指して、多くの米農家が活用して、食味値が上がっていくような方向性ができれば、機械の必要性も分かるが…。

○ 農協は通さずに販売は自分で販売していることでしたよね。

○ 農協の取扱量が年々減っている。大手に売っている状況にある。ある水稲農家はコンビニにイクヒカリを売っている。そのような中で、出荷米としているのはどの程度あるのか、自家消費がどの程度なのか調査をされたのでしょうか。肝付町で出荷している大型農家は数件だと思う。その方々がどのように考えているのか調査をされたのか。

○ この前の参考人の中には水稲を45ha作付けし、販売先は確保できると聞いている。「なつほのか」が有利な品種であり、味で勝負したいということでもあるので、食味値の分析できる機械の導入が必要ではないかと思う。

○ 伊佐市の導入状況を調べてみてはどうか。

○ 委員会の意見として、その機械を町としては積極的に導入して稲作振興を図るべきであるということでまとめてはどうか。

○ 現在はどういう機械なのか把握していない状況である。導入している伊佐市を調べて必要なものであるか、調べる必要があると思う。どれくらいの利用があるのかなど、費用対効果を調べる必要がある。どのような物なのか把握したうえで委員会として提言できればよいと思う。

○ 議会の役割があるので、その調査については役場の権限に入ってしまっているような気がする。町民からの意見があるのであれば、議会（委員会）として調べるのではなく、担当課が調べることで、町が判断することだと思う。議会（委員会）は、町民の方々の意見を調査するわけなので、担当課で導入する方向で考えてもらいたいというのが委員会の意見として妥当だと思う。言われるように、実績まで調べることが望ましいかもしれないが、担当課が調べることであって、機械を導入した後の費用対効果であっても、おそらく東北地方の農家は単体でもっていると思う。規模が大きいので必要なものだと思う。

○ 個人でなくてもグループで持っているかもしれないですね。

○ 「なつほのか」をブランド化したいという意味で米づくり研究会の方々はそれがあればいいんじゃないかという意見で、あったら進められると、また町からも奨励してもらえれば助かるという意見だったと思う。「なつほのか」を作っていない人はいらないと思いますが…。

○ それは違うと思う。どの品種でも食味分析はできることになる。品種に限らず食味値を分析するので、有利になると考える。研究会の方々は、代表的な稲作農家である。他の稲作農家も参考になるし、その価値を対外的にできるので販売するときに有利になるというふうに理解したところである。

○ 議会としては、農家がそのような希望を持っているのであれば、その考え方を統一してまとめる必要がある。導入については担当課が考える必要があると思う。補助金を出すよりも、環境整備をした方が農家はやる気が出ると思う。

○ 委員会の目的は、本町の稲作についての現状や課題、今後の動向などを調査する目的であった。それぞれの水稲（品種ごと）の作付け状況などの現状をまとめる。次に課題のことについては、土壌分析をする機械の導入についての課題がある。今後の動向は、ブランド化を図ることが必要だということで、食味値を分析する機械が必要であるということで、この3点に絞って報告書をまとめる必要があると思う。

○ 今朝ほど農業振興課長に現状など品種ごとの収量がわかるような数字で推移がほしいということで相談に行った。現状と課題、今後の動向という組立で進めたいと思う。

○ そのような形でまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

「はい」（各委員より）

○ その他にご意見などないでしょうか。

○ コメ不足についての動向も気になるところである。コメの価格が高くて購入できないと聞いている。農家の方々はどのような感想だったか。

○ このまま価格は推移するということである。そのうち落ち着くのではないかと国から出ている。需要があるから価格が高いと思う。インバウンドの影響もあると考える。町の農家の方々は今がチャンスであると考えており、自分で売れるチャンスであるという意見であった。

(2) その他

・調査研修について

○ 前回の委員会において、長崎県の壱岐市と説明したが、島根県壱岐郡の海士町の間違いであった。海士町の町おこし（町の再生）を行い、町長など給料を半減にしたり、町が一体となった取組みが放送された。

○ 海士町はCAS（キャス）冷凍の取り組みを行っている。その冷凍の技術で新鮮なものを高く売れる。果物にも適している。垂水の牛根漁協がCAS（キャス）冷凍を導入している。長島町も導入している。CAS（キャス）冷凍の技術は幅広く活用できると思う。

※ CAS（キャス）冷凍とは、冷凍装置内に磁場を発生させて水分子を細かく振動させながら冷やす技術のこと。

○ そのような町の再生とCAS（キャス）冷凍の技術に興味があるが、島根県に行くとする日程的に研修はできるのか。

○ 研修は非常に厳しい日程になる。

○ この資料に書いてある佐賀県の太良町立病院と宮崎県の都農町国民健康保険病院のこの２つで研修しては如何か。

○ 宮崎県の都農町国民健康健病院は、本町との形態が違うということで合わない部分がある。小児科を入れて再建したということで、本町は小児科を入れるのはハードルが高く、調査も必要であることを聴いている。

○ 町立病院について、将来を見据えて議論するべきだと思うので、うまくいっていない形態も研修するべきであると考えるので、今回の研修は町立病院について特化してよいと思う。

○ 九州圏内での研修をしてはどうかと思っている。私の意見を述べさせてもらうと、佐賀県の町立病院の財政再建についての研修と陸上養殖を視察してはどうかと思っている。

○ 町立病院と陸上養殖の２つの案件を視察してよいと思う。

○ １月末は議員研修がある。

○ ２泊３日の行程で進めていく。

○ 執行部は同行しないでよいのか。病院と林務水産商工課に声掛けをしてはどうか。

○ 調査研修については、相手方に相談して日程を決めたいと思うが２月で進めることになる。

【まとめ】

研修内容：町立病院の財政再建と陸上養殖による地域を巻き込んだ町おこしの取組みについて

研修場所：佐賀県太良町「町立太良病院」
　　福岡県豊前市「フィッシュファームみらい合同会社」（第１候補）
　　熊本県八代市「有限会社　ひらやま」（第２候補）

研修時期：１月又は２月

その他　：日程については、委員長に一任する。

次回日程

後日日程を調整して、改めて連絡する。

産業・福祉委員長　　吉原　光

令和６年１０月２５日受付 肝付町議会事務局　第411号	議長	局長	次長	係
	電子	電子	電子	電子

委　員　会　会　議　録

〔　産業・福祉　委員会　〕

１．日　　時　　令和６年１０月１０日（木）
　　午前・午後１０時００分開議　～　午前・午後１１時２０分散会
２．場　　所　　第１委員室
３．出席委員　　吉原・田中・前田・木村・田布尾・中原　計６名　　欠席：益山
４．事務局職員　　西森
５．説明員　　なし
６．参考人　　肝付町おいしい米づくり研究会　３名
　　会　長　　下園政雄（肝付町野崎 1548-1）
　　副会長　　内村香織（肝付町前田 4037-7）
　　書記会計　福田智浩（肝付町富山 1674-5）
７．会議に付した事件
　(1) 閉会中の継続調査について
　　「本町の稲作について」
　　参考人：肝付町おいしい米づくり研究会役員
　　意見を求める事項：本町の稲作における現状や課題、今後の動向について
　(2) その他
　　調査研修について
８．議事の経過概要

【委員長あいさつ】

本日は、本町の稲作についてということで、おいしい米づくり研究会の方々にも参考人にも出席してもらうことになっています。また、補助として農業振興課長と担当者も出席していただけるということになっております。
では早速ですが、協議に入りたいと思います。
（参考人が入室する。）

(1) 閉会中の継続調査について
「本町の稲作について」
参考人：肝付町おいしい米づくり研究会役員
意見を求める事項：本町の稲作における現状や課題、今後の動向について

委員長：本町の稲作について、現状と課題・今後の動向など意見をお聞きしたいと思っています。
それぞれ委員の方々より、ご質問などを頂き進めていきたいと思います。
本日は、おいしい米づくり研究会より会長、副会長、書記会計の３名の方々に出席をしていただいて、本町の稲作、米づくりなどについての現状又は課題など、意見をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
お手元に、おいしい米づくり研究会の総会資料と復命書、これは農業振興課が作成したものを参考資料としてお配りしておりますのでご確認ください。
また、回覧で「地域農業を考える話し合い」というのも開催されています。ここでも農業について、いろいろと話になっていると思いますが、今の農業の現状などお話しいただければと思います。

【意見・質問】

○ 本町の農業の先端を担っていただいていると思いますが、みなさんが取り組んでいることや町の政策として取り組んでもらいたいことなどあったら教えていただきたい。

● 肝付町におけるお米の価値自体が、十数年間埋もれていましたが、「なつほのか」という品種ができてから、認定農業者会の水稲部会からいち早く取り組みを始めて、その商品価値を県外の商社関係に評価していただいて、そこ価値を肝付町の「なつほのか」として高めるために、おいしい米づくり研究会が始まったところです。
ただ「なつほのか」については、収穫時期がお盆を過ぎてからになるので、小規模農家の方々には少し遠慮される品種であるので町全体での広がりが少ない状況です。
町内では、コシヒカリ・イクヒカリ・なつほのかが町内で作られる3品種でありますが、コシヒカリに関しても収量が望めない、イクヒカリに関しても現在気候との兼ね合いで質が悪かったりしており、唯一望みがあるのが「なつほのか」の品種で、みんなで肥料設計から土壌分析、また生育状況などをみんなで情報共有しながら、「なつほのか」のブランド化を進めていきたいと考えています。

○ 「なつほのか」は収穫時期がお盆を過ぎるから、農家に広がらないということですね。

● お盆前に帰省する人のために食べさせてあげたいということもあると思います。

○ 近年、高温障害など言われていますが、本町も地域的に気温が高いところであるが、食味的な影響や苦労はされていないでしょうか。例えば、寒暖差の大きいところの方がおいしいとか言われますが、販売など苦労されることはないですか。

● 「なつほのか」の品種に関して言えば、百貨店やデパ地下で売られるレベルの食味値が 80 を超えるものになりますが、肝付町でも作れる品種となります。東北などと比べてもレベルの差はないと思っています。なので、知名度と広がりがまだ弱いことが現状であります。しかし、気温の低さには弱い方ですが、先ほど言われる気候変動に関しても強いほうだと思います。

● また、令和3年度のコロナ禍の前に、おいしい米づくり研究会で九州管内であったお米の食味の品評会でも、肝付町のお米が県内でブランド化されたお米などを抑えて、2件表彰されて評価されたところです。

○ 素晴らしい品種ですね。実際、どれぐらいの農家割合で作られているのでしょうか。面積でどれくらいでしょうか。これが広がって肝付町の「なつほのか」というブランド化につながると思いますが…。

● コシヒカリとイクヒカリで約 200ha で、なつほのかが約 60ha であります。

○ 高山地区の水田面積はいくらでしょうか。内之浦地区と合わせて 1,000ha だったでしょうか。

● そうですね、内之浦地区と合わせて、約 1,000ha になります。

○ 「なつほのか」を広めることが得策であると認識しますが、広めるための課題は収穫時期が遅れており、お盆前に食べさせてあげたいというのも分かりますが、その他に広がらない理由があるでしょうか。認知度が足りないのか、食べたことがないのか、作るのが難しいとかあるのでしょうか。

● 作付けに関しては、他の品種と変わりはないですが、販売するにあたって誰で出されても、場所によって個人で使う肥料に関して差があったり食味値に差が出てしまいます。おいしい米づくり研究会で食味値を他社の方に成分を測ってもらっています。もしそのような成分を測るものを肝付町で準備ができるとすれば、食味値 80 を超えるものだけを出荷していくと、肝付町でもある程度同じレベルで、基準で販売をしていけば、認知度は上がるのではないかと思います。

○ おいしい米づくり研究会の中でも、土壌診断など取り組んでおり、少ない予算の中でも頑張っておられると思います。基準を意識して取り組んでおり、それをブランド米として売り出せば問題ないとい

うことですね。

○ 水田管理や肥料等、他の品種と比べると難しいでしょうか。
● 収穫時期が遅れるということが課題である。

○ 「なつほのか」は収量もあり、おいしい品種である。
○ 認知度を上げる必要があると考える。

○ 「なつほのか」が約 60ha ということですが、研究会が占めている面積はどれくらいでしょうか。
● 航空防除の面積からすれば、約 60ha ですが、実際の作付けは約 120ha だと思います。そのうちの 8 割程度が研究会で作付けしていると思います。

○ 水稲部会との絡みはあるのでしょうか。また、それぞれの品種で検査を受けて出荷をされているのでしょうか。
● 基本的にはそのような形で、「なつのほか」も流通米としてでています。肝付町だけではなくて、近隣も「なつほのか」を栽培しているので、「なつほのか」の流通米としてでています。

○ 今回、仮渡しが 9,200 円ということでありますが、一緒に 9,200 円ということでしょうか。
● 品種の区別はなく一緒になっています。

○ 土壌分析は、全部の圃場を分析しているのでしょうか。圃場を選んで分析をされているのでしょうか。
● 試験圃場を決めており、その土壌を持ち込んでいることになります。同じ圃場を分析しているところです。
● 土壌分析から肥料設計を行っているので、自分でその圃場の形態が自分でわかることになります。多少は地域の特性によって地力のあるなしがわかるので土壌分析はやっているところです。

○ 全部の場所を土壌分析ができればいいのかと思いますが、結構な面積であるので現実的には難しいと思いますが、そのようことができればかなり良いのではと思うところであります。

○ 食味値の分析の関係ですが、外部でお願いしているということですが、それが肝付町でできればということでしょうか。
● 近年では伊佐市が庁舎内に分析ができる状況となっています。いつでも農家が利用できることになっています。

○ その機械はいくらぐらいかかるものですか。
● 食味地分析を行うのに 300 万円ぐらいです。それに土壌分析も行える機械がプラス 100 万円となっています。費用対効果を考えると難しい。

○ 再生協議会で集積を含めて団地化を進めることとなっていると思いますが、将来に向けて米づくりに向けた団地化は進めることができれば、非常に効率の良いし、取り組みを行う上でもプラスになるのかと思いますが如何ですか。団地化については、進めているので必要ないのか、お聞かせいただきたい。
● 理想は集約化必要であるが、畜産の町でもあるので飼料作物の作付もあるので、お米だけで団地化にすることは難しいと思います。
● 地区での集団化は望ましいと思います。作業的にも効率化につながることになるので、自分で集約化

はしている状況にあります。
○ 個人で動いていることと、再生協議会と連動することができればいいですね。
● そうですね、そうなると進みやすいところはあると思います。

○ 地域商社との連携とは、ふるさと納税との関係でしょうか。
● ブランド化などに向けて、情報収集をしていますが、他の産品など総合的に進めていきたいと思っているところです。

○ その様なお米をふるさと納税の返礼品で使ってはどうでしょうか。そのようになると、全国的にも肝付町のお米を PR できるのではないかと思ったところです。ふるさと納税と連携してはいかがでしょうか。
● 研究会は食味値にこだわり、ブランドとして出したいと思っているところであります。ブランドの認証など制度をつくる必要があると思いますが。食味値を分析する機械など予算が伴うものであることから苦労しているところであります。

○ 全国的にも肩書を頂いているのであれば、消費者の方から評判を得られれば価値が上がりそうな気がします。
● 現在「なつほのか」に関しては、来年の契約数が決まっているところであります。ふるさと納税に出すまでに量がない状況です。出口はあるので作り手を増やす必要があると思います。

○ 出口で販売先もあるということだが、土壌分析など行うためにそのようなデータを共有するには研究会に加入しないといけないのでしょうか。
● 作り方については、コシヒカリと同じ作付けで問題ないですが、町として「なつほのか」を奨励品種として進めるという肩書があるだけで違うと思います。

○ 吾平のイクヒカリは、当時の水稲部会が動いて進めていった経緯がある。その様な意見を反映させて、町としても推進していったので、そのようは方針で進めていければいいと思います。
○ 町が奨励品種として進めることは難しいのか。
● 難しくはありませんが、早期地帯であるので収穫時期の兼ね合いが必要であるので協議が必要かと思います。
● おいしい米づくり研究会は、水稲部会からおいしい米づくりに取り組んで、地域に広めることをしていますので、水稲部会以外の方でもはいれることになっています。
○ 「なつほのか」は収穫が遅れる分、水利との問題があります。WCS との水利関係があるので、田植え時期の分散化が必要になると思います。水の競い合いになる可能性もあります。

○ 水田ファームについて、実証をしているとのことですが効果はどうでしょうか。
● 結果としてはまとめていない状況でありますが、設置をしている方々については、省力化は図られていると思います。

○ 金額的なものもあるかと思いますが、補助事業として導入できるのか？
● 県とも協議をしていますが、水田ファームは、耐用年数もありますが器械的に乏しいのが現状であります。補助事業としてできるのかは、県との協議が必要となります。

○ 品質がよくなるなど、問題点はいくつかあるということでしょうか。
● 前田地区のパイプライン事業もあるので、省力化が図れればよいですが、国県事業を使って水田整備を図ることでは、水田ファームはそぐわないとの回答があります。

○ 水利の問題について、解消する手立てはあるのでしょうか。
● 植え付けの解禁日が定められればいいかと思いますが、畜産農家との連携も必要であります。
理想としては、主食用米を４月中植え付けて、WCS は５月１日以降にするなど、区分けをすれば代掻きまでの水は十分確保できるかと思います。水稲の都合だけでは解決できないと思います。

○ 高齢化で後継者がいない状況であるが、農業はいかがでしょうか。
● 人手不足ではあります。若手の方々との交流会があったのですが、ピーマンを作りながら水田にも興味があったが、水田はお金がかかることになるので、それも問題であると思います。
共同で結い作業などできればよいかと思います。農家同士の付き合いができれば、忙しい時期に労働力の確保ができると思います。また、作れる面積に限度が来ている状況にあると思います。労働力の確保は必要であると思います。

【おいしい米づくり研究会からの意見など】
● 農業再生協議会での集約化など協議をしていますが、水稲で生活しているのは２名しかいない状況です。機械更新が必要になり、莫大な経費がかかることになります。水田専用の受託会社を作ろうと考えているところです。みんなですべての農地を守りましょうという理想とは少し離れていき、条件の悪い中山間地はあきらめることになるというスタンスを考えており、理想通りにはならいと思います。
初期投資で借金をして農業をやる状況にあり、最低でもコメ作りは２５ha は必要であると思います。

● 今回の米騒動が良い引き金になって、個人農家より買う人が多くなってきた状況にあります。個人販売を始めるにはチャンスかもしれないと思っています。米の確保について、予約は来年分までとなっている状況です。

○ 食味分析が本町でできればと期待してよいでしょうか。
● 町内で誰がおいしい米を作ったかなど、表彰などをやってもらいたいと思います。コメ作りに活気が出てくると思います。

【委員長】他にご意見はないでしょうか。
○ 今の意見のようなアイデアをこういう場で出せていければと思います。このような場をつくることが必要であると思います。

本日はお忙しいところ、長時間にわたりありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします。

【おいしい米づくり研究会　退室】

委員長：今後内容をまとめて、次回協議したいと思います。

(2) その他
・調査研修について
委員長：次に（2）その他に入りたいと思います。
事前に研修先や内容などありましたら、お知らせくださいとしておりましたが、何もありませんでしたので、本日の委員会でご発言いただければと思います。
委員の方かないでしょうか。
◆ 研修内容（目的）について

研修目的は、産業福祉委員会の所管事務の範囲内であれば問題ない。それに合わせたような研修目的とすることが望ましい。最終的には復命書をホームページで公表するので、その目的などしっかりと復命をお願いしたい。

◆ 研修時期について

・１月中を目途に研修を予定としている。

【委員からの意見】

① 岐阜市の農業再生協議会の取組み。

② 長崎県壱岐市の町の再生につながる取組み。プロジェクトＸでも紹介された。

③ 町立病院の先進地視察。福井県に病院がある。病院財政の再建など視察をしてはどうか。

④ 陸上養殖が流行っており、災害や病気に左右されない。学校施設を利用して取り組んでいる。福岡県や熊本県で取組みを行っている。

⑤ 高知県の杉戸で、特色あるコメ作りをしている。

この中からそれぞれで調べて頂いて、一つに絞っていければと思います。
次回研修会で、ご意見いただければと思います。

次回日程

後日、調整し案内します。（8 日（金）：田中副委員長は予定がある。）

産業・福祉委員長　　吉原　光